

講演演題

審美補綴に必要な天然歯形態と色彩表現

講演抄録

自然で美しい調和の取れた顔貌および口腔を作るためには、天然歯の「形態」と「色彩」を再現することが必要である。

形態においては、歯牙の大きさ、長さ、歯列での歯牙の位置関係が大切である。

さらに歯牙の「質感」を表現する、「表面性状」を再現することも大切である。

患者の顔貌に調和する歯牙形態およびスマイルライン(歯牙の位置関係)は一つのパターンに限られたことではなく、様々な組み合わせが考えられる。

最終補綴物の決定は、診断用模型およびプロビジョナルレストレーションにおいて検討をかさね顔貌との自然な調和を作り出すことが、審美補綴において最も大切である。

色彩表現は天然歯にみられる、層構成による色彩を知ることが大切であり、象牙質とエナメル質の層構成を再現することで、歯牙の色彩は再現できる。

ラミネートベニア、プレスセラミック、ジルコニアクラウンとインプラント補綴を含めた症例にて、審美補綴において、天然歯形態と、色彩表現の大切さをお話します。

大阪セラミックトレーニングセンター

代表 片岡繁夫

片岡繁夫 略歴

大阪セラミックトレーニングセンター 主宰

有限会社片岡セラミック 代表

I V O C L A R社国際インストラクター

1972 行岡医学技術専門学校歯科技工士科卒業

1984 大阪セラミックトレーニングセンター開校

1989 (有)片岡セラミック開業

1994 大阪セラミックトレーニングセンター宮崎校 開校

2006 (有)ZERO publishing 設立

2015 龍馬塾 開塾

1993 Nature's Morphology 発刊

2005 Harmony 発刊